

私の考えるこれからの農業

山形県遊佐町 和牛繁殖農家 佐藤 綾

私は畜産(和牛繁殖)を経営の軸とし、転作田を活用した自給飼料生産を行っています。10年前の就農時、10頭程度の繁殖牛も今は50頭を超え始めました。稲WCSの生産も行っており、稲作農家さんと提携して生産し、作付管理はして頂いて収穫および堆肥散布はこちらで請け負うような形態です。

WCSの収穫は専用コンバインと自走ラップマシンを利用します。個人で全てを行うには、労力的にも機械の費用対効果的にも無理があった為、地域の農家さんに声掛けをし、チームを組むことでこの点を解消しました。作付けは転作事情や高齢化離農による耕種農家の規模拡大方向も相まって、耕種農家さんにこぞって提案に乗って頂きました。現在は三軒の繁殖農家にて毎年30haほどの収穫をしています。収穫シーズンは多忙ですが、皆が良いものを安く確保できるという共通意識を有しており、計画的に推進しているところです。

堆肥は生産圃場へ還元し、循環形態も順調に構築できています。水田地帯ということもあり、契約内外の農家さん達とも多数の繋がりが持て、敷料となる籾殻も潤沢に確保できています。

収穫後の精算時には、算出根拠やおおよその慣行比コスト削減額、簡単な原価計算を提示し、意識の怠慢化にならないように数字で示すようにしています。こういった取り組み方法は企業であれば普通にされていることなのでしょうが、個人農家として数字をしっかりと押さえていることは稀です。現状をしっかりと

把握しながら、数年先を見据えた経営をする為には、自身の経営内容を常に理解しておく必要は大いにあると思います。

全国各地で勉強会は開催されていると思いますが、そのほとんどは技術的なものだと思います。私の地域には「若牛塾」という、若手後継者を軸とした勉強会が年に数回開催されております。そこで学ぶ内容は、関係機関と農家代表者らで組成する運営委員会にて決めており、経営学なども講義の内容に入れて頂きました。技術があって利益が出るのと、利益を出すために技術を磨くのとでは、求めていく技術実績は同じでも、根本的には違うというところです。後者ではコストとの兼ね合いも入りますので、経営内容を見ていくと利益率等に徐々に差が出てきます。

農家は百姓と呼ばれます。昔からたくさん仕事をこなすことから来たのでしょうか。現代の百姓はビジネスとして確立した農業を行う為、生産者と経営者の二面の顔を特に持つ必要があると思います。職人と社長として、世界と戦えるレベルの生産物を産出し、持続的に経営を行っていく技量が必要です。

農業は今や世界情勢や政治動向なども見ながら先行きを見通さなければなりません。現代版百姓でありながら、百笑となる楽しみとやりがいのある農業経営をし、百勝して世界に誇れ、後世に続く農業を技術や知識、労力等も協力し合って構築(耕畜)していきたいです。

(さとう りょう)